

第4期中期目標・中期計画【5-2-①】に関する

令和4年度 自己評価書

国際企画推進室会議

中期目標・中期計画自己評価書検討部会

令和4年度 自己評価書(第4期中期目標・中期計画【5-2-①】関係)

【評価指標に係る当該年度の目標値】

【5-2】に関連する教育を「計画している具体的取組」欄の1)-3)に区分し、各事業の成果報告を全学的にまとめる仕組みを構築する。令和4年度の自己評価書をまとめ、評価結果に基づく取組改善案を立案する。

【R4 年度行動計画(Plan)】

・【5-2】に関連する教育を「計画している具体的取組」欄の1)-3)に区分し、各事業の成果報告を全学的にまとめる仕組みを構築する。令和4年度の自己評価書をまとめ、評価結果に基づく取組改善案を立案する。

【R4 年度取組実績及び進捗状況(Do)】

・国際企画推進室会議に中期目標・中期計画自己評価書検討部会を設置し、【5-2】の評価指標である「各事業の成果報告と全学的にまとめる仕組みの構築と自己評価結果に基づく取組改善策の立案状況」に係る自己評価書をまとめる仕組みについて、各事業の担当者を明確にして情報収集ルートを整理し、自己評価書のテンプレートを作成した。

・令和4年度末までに自己評価書(案)をまとめ、評価結果(案)に基づく取組改善案(案)を立案した。確定版と公表は、令和5年度に行う。

【R4 年度取組実績に対する自己検証・自己評価(Check)】

・【5-2】に関連する教育「計画している具体的取組」欄の1)-3)を担当する教員に6年間のロードマップを作成してもらい、担当事業について各自が自己評価書を記入する仕組みを整えた。この仕組みの構築は、各事業が、同目標期間に安定的に PDCA サイクルを行う基盤となると評価できる。

・令和4年度末までに自己評価書、評価結果に基づく取組改善案を立案し、本年度の目標を達成したことは、PDCA サイクルの順調な実施と評価できる。

【上欄に基づく取組改善策の立案(Action)(R5 年度行動計画(Plan)に相当)】

・令和4年度の自己評価書を公表する。併せて、各事業で令和5年度の行動計画を実施する。また、各事業の実績をまとめた令和5年度の自己評価書を作成し、令和6年度の行動計画(取組改善案を含む)を立案する。

令和4年度 自己評価書(第4期中期目標・中期計画【5-2-①】関係)

【評価指標に係る当該年度の目標値】 令和4年度の自己評価書をまとめ、評価結果に基づく取組改善案を立案する。
1)地域特性や SDGs の観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、異文化環境でのインターンシップ A. 進取の精神グローバル人材育成 双方向交流プログラム (P-SEG Interactive)
【R4 年度行動計画(Plan)】 ・同プログラム(P-SEG Interactive)を 1.共通教育、2.学部専門教育、3.大学院教育の各学習段階で活用し、国際共修・双方向交流を本学の国際教育の柱とする教育体制の確立にむけた制度整備・改革に着手する。
【R4 年度取組実績及び進捗状況(Do)】 ・R4 年度は、コロナ・パンデミックによる各国の入国管理規制の緩和によって、海外研修(派遣プログラム 26 件、受入プログラム5件)を実施することができた。これらすべての海外研修において、実渡航(対面)で実施する国際協働学習の前後に、オンラインを活用した国際協働学習を行い、交流内容や期間を充実化・長期化させることを強く推奨した。その結果、実渡航を伴わないオンライン協働学習も合わせると、全 23 件の国際共修を実施することができた。国際教育のベースとなる英語力強化を目的に、Intensive English コース及び TOEFL 模擬試験を実施した。英語以外も含めたコミュニケーション力を養成することを目的とする、グロスペ外国語も実施した。国際教育の制度整備・改革については、R5 年度にむけて、海外研修支援事業の実施要領や審査基準の見直しを行い、短期間「行ったきり」の海外研修ではなく、受入機関との密接な連携に基づく、双方向かつ継続的交流計画のあるプログラムを優先的に採択する仕組みを整えた。
【R4 年度取組実績に対する自己検証・自己評価(Check)】 ・計画通り実施した。
【上欄に基づく取組改善策の立案(Action)(R5 年度行動計画(Plan)に相当)】 ・海外研修やオンラインを利用して行う海外連携大学との国際協働学習だけでなく、本学に留学している外国人学生と国内学生との共修を推進する。特に、大学教育の基礎となる、共通教育及び高度共通教育において国際共修科目を拡大することを目的に、ワーキングを設置する。

令和4年度 自己評価書(第4期中期目標・中期計画【5-2-①】関係)

【評価指標に係る当該年度の目標値】

令和4年度の自己評価書をまとめ、評価結果に基づく取組改善案を立案する。

「1)地域特性や SDGs の観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、異文化環境でのインターンシップ」

B. 保農獣工連携家庭訪問事業

【R4 年度行動計画(Plan)】

- ・隔絶性の高い離島で暮らしている芋農家および畜産農家の住民宅に、本学の保健学・農学・獣医学・工学の学生が合同で家庭訪問を行い、それぞれの専門性の立場から現在の対象者の状況についてアセスメントを行い、異分野および多職種連携に向けて発表と討議を行う。
- ・家庭訪問の様子を撮影し、教材を作成する(日本語と英語)。
- ・来年度からのフロリダ A&M 大学との連携に向けて、カウンターパートの担当教員と打ち合わせを行い、今後の計画を立案する。

【R4 年度取組実績及び進捗状況(Do)】

- ・令和 4 年度経営戦略経費に応募し、本事業が採択された。コロナ禍や渡航の気象条件などもあり、黒島への渡航(訪問)は最小限の教員で行い、医学部保健学科看護学専攻・理学療法学専攻・作業療法学専攻、理工学研究科、農学部、獣医学部の 4 部局 9 名の学生がキャンパスに集合して、2 名の対象者とオンラインで繋ぎ、令和4年 11 月 25 日～27 日に実施した。看護学専攻の学生は「総合テーマ実習」、その他の学生は高度共通教育「Kagoshima de SDGs II」での履修とした。芋・みかん畑や畜産の様子、家屋や集落の環境、本人や家族の健康状態等について、対象者へのインタビューと暮らしの観察を行い、グループワークを実施し、グループワークでの成果物を対象者と三島村役場保健師、各部局の教員を交えて発表と討論を行った。
- ・オンライン家庭訪問の様子を撮影し、対象者毎に日本語での教材を作成した。
- ・米国フロリダ A&M 大学との連携に向けて、若手教員海外研修支援事業(女性枠)に保健学科から応募して採択された。申請に先立ち、フロリダ A&M 大学の教員と密に連携した。

【R4 年度取組実績に対する自己検証・自己評価(Check)】

- ・参加した学生より「これまで大学の中で学部間を越えての共同ディスカッションするような講義・演習はなく、とても勉強になった」、「自身の専門性を見直すきっかけになった」など、他分野の視点を新鮮に捉え視野を広げると共に、自らの専門性についても理解を深め、総合大学としての強みを出せる事業を行うことができた。

【上欄に基づく取組改善策の立案(Action)(R5 年度行動計画(Plan)に相当)】

- ・令和5年度経営戦略経費に応募し、事業を継続する。フロリダ A&M 大学から工学と保健学の教員 2 名を招へいし、事業に参加していただくと共に、今後の交流についてディスカッションを行う。
- ・海外学生との COIL に向けて、教材の英語版を作成する。
- ・令和 4 年度に行った事業について英文論文を投稿する。

令和4年度 自己評価書(第4期中期目標・中期計画【5-2-①】関係)

【評価指標に係る当該年度の目標値】

令和4年度の自己評価書をまとめ、評価結果に基づく取組改善案を立案する。

「1)地域特性や SDGs の観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、異文化環境でのインターンシップ」

C. 課題解決型の異分野 X 国際協働学習-Kagoshima de SDGs(高度共通教育科目)等の実施

【R4 年度行動計画(Plan)】

- ・Kagoshima de SDGs I (Lecture)では、本学と海外連携校が参加可能な異分野協働のオンデマンド講義を提供する。
- ・Kagoshima de SDGs II (Field Study)では、本学と海外の学生が合同で課題解決型リサーチを実施する。対面でのリサーチを可能にするため、本学の海外研修支援事業の見直し、派遣と受入の双方向の支援を検討する。
- ・派遣学生や受入学生への奨学金として、JASSO 海外留学支援制度に応募する。

【R4 年度取組実績及び進捗状況(Do)】

- ・Kagoshima de SDGs I において、オンデマンド英語講義を提供した。Kagoshima de SDGs II においては、黒島コースと新宿コースの2つを実施し、異分野 X 国際のリサーチにもとづく学習機会を提供した。また、R5年度に実渡航による派遣と受入の両方を行う計画があるプログラムについて、JASSO 海外留学支援制度に応募した。

【R4 年度取組実績に対する自己検証・自己評価(Check)】

- ・計画どおり実施した。

【上欄に基づく取組改善策の立案(Action)(R5 年度行動計画(Plan)に相当)】

- ・R5 年度 JASSO 海外留学支援事業に申請し、派遣プログラムは採択されたが、受入プログラムは不採択となった。JASSO 不採択となった受入事業については、進取の基金を利用した海外研修受入支援事業による支援を行い、実渡航を可能にする。実渡航は、オンライン国際協働学習を組み合わせることを義務化し、海外連携大学との国際協働学習の質的向上を図る。

令和4年度 自己評価書(第4期中期目標・中期計画【5-2-①】関係)

【評価指標に係る当該年度の目標値】 令和4年度の自己評価書をまとめ、評価結果に基づく取組改善案を立案する。
「1)地域特性や SDGs の観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、異文化環境でのインターンシップ」 D. 国際×地域インターンシップ等-大学の世界展開力強化事業
【R4 年度行動計画(Plan)】 ・大学の世界展開力強化事業(以下「本事業」という。)最終年度において、国際連携を強化・再確認し、次年度以降の交流計画を立てる。 ・シンポジウムを開催し、地域課題をテーマとする、鹿児島大学独自の国際共修プログラムの展開に向けて、これまでの産学官民の連携の成果を確認し、今後取り組む地域課題の明確化とインターンシップ等の実践的プログラムについて検討を行う。
【R4 年度取組実績及び進捗状況(Do)】 ・本事業最終年度において、国際連携を強化・再確認し、全プログラムで合意書を締結し、次年度以降も交流を継続させる方向を確認した。国際シンポジウム(2022 年 12 月 3 日開催:多極化時代の人生の歩み方:ラテラルな世界の新たなみちしるべ)を開催し、地域課題をテーマとする、鹿児島大学独自の国際共修プログラムの展開に向けて、これまでの産学官民の連携の成果を確認し、今後取り組む地域課題の明確化とインターンシップ等の実践的プログラムについて議論をおこなった。
【R4 年度取組実績に対する自己検証・自己評価(Check)】 ・計画どおり実施した。
【上欄に基づく取組改善策の立案(Action)(R5 年度行動計画(Plan)に相当)】 ・本事業で協力体制を築いた関係大学との連携を継続するとともに、本学の留学生と国内学生との間の国際共修を推進し、教育の国際通用性をさらに高める。

令和4年度 自己評価書(第4期中期目標・中期計画【5-2-①】関係)

【評価指標に係る当該年度の目標値】 令和4年度の自己評価書をまとめ、評価結果に基づく取組改善案を立案する。
「1)地域特性や SDGs の観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、異文化環境でのインターンシップ」 E. エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生受入
【R4 年度行動計画(Plan)】 ・エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生受け入れに向け、当該修士課程の運営会議(CSLM)に出席する(9月)。 ・エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生の受け入れに向け、JV-Campus を用いた COIL で 1),3)に関する予備学習プログラムを提供する(10月から)。 ・エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生を受け入れ、1),3)国際共修教育を実施する(1~2月)。
【R4 年度取組実績及び進捗状況(Do)】 ・エラスムス・ムンドゥス修士課程運営会議(CSLM)に出席(2022年9月は実渡航、2023年3月はオンライン参加)、し、当該修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生受け入れに向け協議した。 ・エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生の受け入れに向け、JV-Campus を用いた COIL 予備学習プログラムの提供の準備を行った。 ・令和3年度に策定した協定等に基づき、エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムを実施した。令和5年1月から2月までフランス人女子学生2名、3月にブラジル人女子学生1名を受け入れた。前二者には理工学研究科及び人文社会科学研究科から計8単位、後者には理工学研究科から4単位を付与した。
【R4 年度取組実績に対する自己検証・自己評価(Check)】 ・おおむね計画どおり実施した。
【上欄に基づく取組改善策の立案(Action)(R5 年度行動計画(Plan)に相当)】 ・令和5年度も昨年度と同様の行動計画とする。ただし9月のCSLMには実渡航による参加は難しいためオンライン参加の予定である。

令和4年度 自己評価書(第4期中期目標・中期計画【5-2-①】関係)

【評価指標に係る当該年度の目標値】令和4年度の自己評価書をまとめ、評価結果に基づく取組改善案を立案する。
「2)外国語教育」
【R4 年度行動計画(Plan)】 ・SDGs 関連の教科書を英語推奨教科書リストに導入 ・学生の英語力の客観的把握方法についての検討
【R4 年度具体的行動計画(Plan)】 ・第 4 期中期目標・中期計画で全学的に SDGs を取り扱っていくことを全英語教員に周知し、授業での教科書等での導入検討を依頼する。 ・英語の推奨テキストリストのリーディング部分を中心に SDGs 関連の教科書を加える。 ・英語外部試験を前期・後期に実施する。
【R4 年度取組実績及び進捗状況(Do)】 1. 令和5年度に向けて「2023 年度共通英語について」という説明文(日・英語)を作成し、英語教員に SDGs の観点を活かした授業推進について周知し、推奨テキストリストの変更点を説明した。 2. 令和4年度の推奨テキストリストのリーディング部分を中心に SDGs 関連の教科書を加え、令和5年度推奨テキストリストに SDGs 関連の教科書を加える更新をした。 3. 経営戦略経費に申請して財源を確保した英語外部試験について検討した結果、G-TELP を実施することとし、1年生前期・後期、2 年生後期の全学生に試験を実施した。また、令和4年度の前期・後期に実施したテスト結果の分析をテスト実施業者に委託した。
【R4 年度取組実績に対する自己検証・自己評価(Check)】 1. 計画どおり、英語教員に対して授業等での SDGs の取扱いについて周知し、教科書等の導入検討を依頼することができた。 2. 計画どおり、令和4、5年度の推奨テキストリストでリーディングを中心に SDGs 関連の教科書を加えることができた。 3. 学生の英語力の客観的把握のため財源を獲得して試験を実施し、結果分析に進むことができた。
【上欄に基づく取組改善策の立案(Action)(R5 年度行動計画(Plan)に相当)】 ・SDGs をどの程度授業で扱っているのかを、使用した教科書の実績やシラバスの SDGs の項目のチェック数などで検証を試みる。 ・令和5年度も引き続き、前年と同じ外部試験(G-TELP)を導入するとともに、令和4年度の試験結果を得て、検証する。

令和4年度 自己評価書(第4期中期目標・中期計画【5-2-①】関係)

【評価指標に係る当該年度の目標値】 令和4年度の自己評価書をまとめ、評価結果に基づく取組改善案を立案する。
「3)外国人留学生に対する日本語・日本文化教育、異文化環境でのインターンシップ」
【R4 年度行動計画(Plan)】 ・外国人留学生の多様なニーズに対応するオンライン日本語・日本文化教育の実施 ・日本での就職やインターンシップを希望する外国人留学生への支援体制について検討
【R4 年度具体的行動計画(Plan)】 ・外国人留学生の日本語学習環境を整備するための検討を行う。具体的には桜が丘キャンパス、下荒田キャンパスの留学生にも対応できるオンライン授業の実施、開講の期間や、開講時間について、また、オンデマンド型教材の導入や、受講管理など留学生のニーズを踏まえて検討する。 ・留学生の就職状況を把握、分析するとともに、留学生を対象としたキャリア教育、留学生のインターンシップについて、キャリア形成支援センターと協力体制を構築し、具体的な方向性について検討する。
【R4 年度取組実績及び進捗状況(Do)】 ・外国人留学生の日本語学習環境を整備するための検討を行い、対面で実施する授業に加え、オンラインクラスを2レベル実施し、桜ヶ丘・下荒田キャンパスの学生も受講した。また、R5 年度からの活用を目指して、漢字学習のためのオンデマンド型教材を作成した。 ・キャリア形成支援センター教員と協力し、留学生のキャリア教育科目受講を推進したほか、課題解決型インターンシップへの参加の在り方について検討した。
【R4 年度取組実績に対する自己検証・自己評価(Check)】 ・オンラインクラスにより離れたキャンパスからの受講が可能となっただけでなく、授業の録画を受講者が視聴できるようにしたことで、多様な学習者に対応することができた。一方で、大学の研究室から参加せざるを得ない学生が散見され、周囲の雑音や発話のしにくさなどが問題となった。また、より多くの学生が参加できるよう、クラスの開講時間や時期について検討する必要がある。 ・留学生がキャリア教育科目を受講し、単位を取得した。中には日本語能力が十分ではない学生もいたため、今後、受講登録の際は日本語要件を明示し、履修の要件を確認させる必要がある。
【上欄に基づく取組改善策の立案(Action)(R5 年度行動計画(Plan)に相当)】 ・外国人留学生の日本語学習環境整備を目指したオンライン授業の実施、オンデマンド型教材の開発を行う。 ・キャリア形成支援センターとの協力関係を構築し、留学生を対象としたキャリア教育、留学生のインターンシップに向けた取り組みを行う。
参考資料【別紙】 2022 年度 SJP 科目受講者情報:開講クラス、受講者の国籍、在籍身分

【別紙】 2022年度SJP受講者情報

注) 1 数字は延べ数。
2 専門・所属：予備教育生はそれぞれの専門によって分類。
3 短期等：特別聴講学生、特別研究生、県費留学生、教員研修留学生、日本語日本文化研修留学生、科目等履修生。
4 修了者数欄  は修了認定をしない授業。
5 共通教育科目は共通教育センターで単位認定を行っている。
6 グレーセル：開講しなかった科目

10

受講者の国籍
令和4年度前期

国籍	科目																																											
	入門 日本語 1	入門 日本語 2	会話 1Ⅰ1 A	会話 1Ⅰ2 A	会話 2 A	会話 3 A	会話 4 A	会話 5 A	会話 6 A	会話 7 A	演習 1Ⅰ1 A	演習 1Ⅰ2 A	演習 2 A	演習 3 A	読解 4 A	読解 5 A	読解 6 A	読解 7 A	作文 4 A	作文 5 A	作文 6 A	作文 7 A	コンピ ュータ 実習 1	漢字 1	漢字 2	漢字 3	日本語 ワー クシ ョッ プ A	留 学生 のた めの 異文 化理 解	日本 社会 と文 化 1	日本 社会 と文 化 2	修 了レ ポー ト	日本 語研 修生 レポー ト	日本 語研 修生 レポー ト	S J P 科 目 計	オンラインクラス			開 講 科 目 計	グ ロー バル セン ター	日本 語Ⅰ	日本 語Ⅱ	日本 事情 A	共 通 教 育 科 目 計	国 別 人 数 総 計
																																			S t e p 1	S t e p 2	オン ライ ン ク ラ ス 計							
インド	1	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0				0	0	0			0	0		0	0	0	0		0	0		0	0	1				1	0	0	0	0	1	
インドネシア	2	0	0	0	3	0		0	1	0	0	0				0	1	0			1	0		1	0	0	2		0	1		2	2	16				16	1	0	1	2	18	
ウクライナ	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0				0	0	0			0	0		0	0	0	0		0	0		1	1	2				2	0	0	1	1	3	
エジプト	0	1	0	0	0	0		0	0	0	0	0				0	0	0			0	0		0	0	0	0		0	0		0	0	1				1	0	0	0	0	1	
韓国	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0				0	1	0			0	0		0	0	0	1		0	0		1	1	4				4	6	5	6	17	21	
カンボジア	0	0	0	0	1	0		0	1	1	0	0				0	1	0			0	0		0	0	0	0		0	0		0	0	4				4	0	0	0	0	4	
ケニア	0	0	0	0	1	1		0	0	0	0	0				0	0	0			0	0		1	1	0	0		0	0		0	0	4				4	0	0	0	0	4	
セントルシア	0	1	0	0	0	0		0	0	0	0	0				0	0	0			0	0		0	0	0	0		0	0		0	0	1				1	0	0	0	0	1	
タイ	0	0	0	0	0	1		0	0	0	0	0				0	0	0			0	0		0	0	0	0		0	0		0	0	1				1	0	0	0	0	1	
台湾	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	0				1	0	0			0	0		0	0	0	1		1	0		0	0	4				4	0	0	0	0	4	
タンザニア	0	0	1	1	0	0		0	0	0	1	1				0	0	0			0	0		0	0	0	0		0	0		0	0	4				4	0	0	0	0	4	
中国	0	0	0	0	1	1		0	0	8	0	0				0	0	9			0	6		0	0	0	0		0	0		1	1	27				27	10	10	12	32	59	
トルコ	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0				0	1	0			1	0		0	0	0	0		0	1		1	1	5				5	0	0	0	0	5	
ドイツ	0	0	0	0	0	0		1	0	0	0	0				1	0	0			0	0		0	0	0	1		1	0		0	0	4				4	0	0	0	0	4	
ニカラグア	0	0	1	1	0	0		0	0	0	1	1				0	0	0			0	0		0	0	0	0		0	0		0	0	4				4	0	0	0	0	4	
パプアニューギニア	0	0	1	1	0	0		0	0	0	1	1				0	0	0			0	0		0	0	0	0		0	0		0	0	4				4	0	0	0	0	4	
バングラデシュ	2	4	1	1	1	0		0	0	0	1	1				0	0	0			0	0		0	0	0	0		0	0		0	0	11				11	0	0	0	0	11	
フランス	0	0	0	0	1	0		1	0	0	0	0				1	0	0			0	0		0	1	1	0		1	0		0	0	6				6	0	0	0	0	6	
フィリピン	0	0	0	0	1	0		0	1	0	0	0				0	1	0			1	0		1	0	0	1		0	1		1	1	9				9	0	0	0	0	9	
ブラジル	0	0	2	2	0	0		0	2	0	2	2				1	1	0			2	0		0	0	0	1		0	1		1	1	18				18	0	0	0	0	18	
ベトナム	0	2	0	0	2	0		0	0	0	0	0				0	0	0			0	0		2	0	0	0		0	0		0	0	6				6	0	0	0	0	6	
ペルー	0	1	1	1	0	0		0	0	0	1	1				0	0	0			0	0		0	0	0	0		0	0		0	0	5				5	0	0	0	0	5	
マレーシア	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0				0	0	0			0	0		0	0	0	0		0	0		0	0	0				0	2	2	3	7	7	
ミャンマー	0	1	0	0	0	0		0	0	0	0	0				1	0	0			0	0		0	0	0	0		0	0		0	0	2				2	0	0	0	0	2	
ラオス	0	1	0	0	1	0		0	0	0	0	0				0	0	0			0	0		0	0	0	0		0	0		0	0	2				2	0	0	0	0	2	
受講者総数	5	11	7	7	12	3		3	5	9	7	7				5	6	9			5	6		5	2	1	7		3	4		8	8	145				145	19	17	23	59	204	

注) 1 数字は延べ数。
2 グレーセル：開講しなかった科目

各授業の受講者数、性別、修了者数、受講者の在籍資格、専門・所属
令和4年度後期

科 目			受講者数	性別		修了者数	受講者の在籍資格					専門・所属																					
				男性	女性		学部生	大学院生	研究生	予備教育生	短期等	研究員	家族等	農学	共同獣医	水産	医学	工学	法文	教育	歯学	理学	人文	教育研	保険	理工	農林水産学	医歯	臨床心理	共同獣医学研	連合農学	連合獣医	他大学
入門日本語1 (zoom)			7	4	3	7	0	0	2	0	5	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	
入門日本語1 (湖南農業大学クラス)			11	2	9	11	0	2	9	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	
会話1B			12	8	4	12	0	0	7	1	4	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	2	0	0	1	0	0	1	
会話2B			16	9	7	14	0	7	3	0	6	0	2	0	0	0	1	1	1	0	1	2	0	0	0	6	1	0	1	0	0	0	
会話3B			7	5	2	7	0	0	4	0	3	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
会話4B			12	6	6	9	0	0	2	0	10	0	2	0	0	0	0	3	5	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
会話5B			12	4	8	11	0	0	3	0	9	0	1	0	0	0	1	4	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
会話6B			10	1	9	8	0	0	1	0	9	0	1	0	0	0	0	7	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
会話7-1B			4	2	2	2	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	
会話7-2B			6	0	6	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
演習1B			12	8	4	12	0	0	7	1	4	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	2	0	0	1	0	0	1	
演習2B			11	4	7	10	0	5	1	0	5	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	
演習3B			9	5	4	7	0	2	5	0	2	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	
読解4B			14	6	8	13	0	0	3	0	11	0	0	0	0	0	5	5	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
読解5B			13	4	9	13	0	0	1	0	12	0	0	0	0	0	1	5	5	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
読解6B 論文読解基礎			15	4	11	12	0	1	2	0	12	0	0	1	0	0	0	0	10	0	0	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	
読解7B			8	2	6	7	0	1	1	0	6	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
作文5B			13	4	9	13	0	0	1	0	12	0	0	0	0	0	0	6	5	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
作文6B			10	2	8	8	0	1	1	0	8	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
作文7B			7	1	6	7	0	0	1	0	6	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
漢字1			7	4	3	5	0	5	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3	0	0	1	1	0	0	
漢字2			6	2	4	4	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	
漢字4			2	2	0	2	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
漢字5			4	1	3	4	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日本語7-ショップ B			34	8	26	32	0	1	1	0	32	0	0	1	0	0	0	0	14	9	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日本社会と文化 1			11	5	6	11	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	1	4	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日本社会と文化 2			9	1	8	7	0	0	1	0	8	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
留学生のための異文化理解			1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
SJP科目 小計			283	105	178	255	0	30	58	14	181	0	0	35	0	0	2	14	83	47	0	2	48	0	0	5	35	2	0	4	3	0	3
オンラインクラス	Step1																																
	Step2	6	4	2		0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	2	1	0	0		
	オンラインクラス 計	6	4	2		0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	2	1	0	0		
グローバルセンター開講科目 総計			289	109	180	255	0	36	58	14	181	0	0	35	0	0	2	14	83	47	0	2	48	0	0	5	36	4	0	6	4	0	3
留学生のための異文化理解			6	2	4	4	0	0	0	0	6	0	0	1	0	0	0	1	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本語Ⅲ*			19	11	8	19	18	0	0	0	1	0	0	4	0	2	0	6	4	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日本語Ⅳ*			20	11	9	20	19	0	0	0	1	0	0	4	0	2	0	6	5	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日本事情B*			30	15	15	29	22	0	0	0	8	0	0	5	0	2	0	9	8	2	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
共通教育科目 計			75	39	36	72	59	0	0	0	16	0	0	14	0	6	0	22	18	6	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注)1 数字は延べ数。
2 専門・所属：予備教育生はそれぞれの専門によって分類。
3 短期等：特別聴講学生、特別研究生、県費留学生、教員研修留学生、日本語日本文化研修留学生、科目等履修生。
4 修了者数欄  は修了認定をしない授業。
5 共通教育科目は共通教育センターで単位認定を行っている。

受講者の国籍
令和4年度後期

国籍	科 目																																								
	入門 日本語 1 （ z o o m ）	入門 日本語 1 （ 湖 南 農 業 ク ラ ス ）	会 話 1 B	会 話 2 B	会 話 3 B	会 話 4 B	会 話 5 B	会 話 6 B	会 話 7 I 1 B	会 話 7 I 2 B	演 習 1 B	演 習 2 B	演 習 3 B	読 解 4 B	読 解 5 B	読 解 6 B	読 解 7 B	作 文 5 B	作 文 6 B	作 文 7 B	漢 字 1	漢 字 2	漢 字 4	漢 字 5	日 本 語 ワ ー ク シ ョ ッ プ B	留 学 生 の た め の 異 文 化 理 解	日 本 社 会 と 文 化 1	日 本 社 会 と 文 化 2	S J P 科 目 計	オンライン クラス			開 講 科 目 計	グ ロ ー バ ル セ ン タ ー	留 学 生 の た め の 異 文 化 理 解	日 本 語 Ⅲ	日 本 語 Ⅳ	日 本 事 情 B	共 通 教 育 科 目 計	国 別 人 数 総 計	
																														S t e p 1	S t e p 2	オ ン ラ イ ン ク ラ ス 計									
インドネシア	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6		0	0	6	0	0	0	0	0	0	6
カンボジア	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	4		0	0	4	0	0	0	0	0	0	4	
韓国	0	0	0	0	0	4	2	1	1	0	0	0	0	5	1	2	1	1	2	0	0	0	2	1	4	0	2	1	30		0	0	30	2	7	7	7	23	53		
ガーナ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		0	0	2	0	0	0	0	0	0	2		
ケニア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		0	0	2	0	0	0	0	0	0	2		
スペイン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	1	0	1	1		
セントルシア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	1	0	0	0	0	0	1	
ソマリア連邦共和国	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		0	0	1	0	0	0	0	0	0	1		
ソロモン	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		0	0	1	0	0	0	0	0	0	1		
タイ	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	6		0	0	6	0	0	0	0	0	0	6	
台湾	0	0	1	0	1	1	1	1	0	0	1	0	0	1	2	1	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	15		0	0	15	1	0	0	0	1	1	16	
中国	2	11	3	4	4	1	5	6	1	6	3	3	5	2	3	9	7	3	6	7	0	1	0	0	17	0	2	7	118		0	0	118	1	10	10	18	39	157		
タンザニア	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		0	0	2	0	0	0	0	0	0	2		
ドイツ	0	0	1	2	0	1	1	1	0	0	1	1	0	1	2	1	0	2	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	18		0	0	18	1	0	0	0	1	1	19	
トルコ	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	3	0	0	0	0	0	1	4	0	3	0	19		0	0	19	0	0	0	0	0	0	19	
ナイジェリア	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3		0	0	3	0	0	0	0	0	0	3		
バングラディシュ	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5		3	0	8	0	0	0	0	0	0	8		
パキスタン	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		0	0	2	0	0	0	0	0	0	2		
フランス	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3	0	1	0	13		0	0	13	1	0	0	0	1	1	14	
ブラジル	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	1	1	1	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	11		0	0	11	0	0	0	0	0	0	11		
フィリピン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		0	0	1	0	0	0	0	0	0	1		
フィジー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	1	0	0	0	0	0	0	1		
ベトナム	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	9		0	0	9	0	0	0	0	0	0	9		
ペルー	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4		1	0	5	0	0	0	0	0	0	5		
マレーシア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	2	2	5	9	9			
南スーダン	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		0	0	2	0	0	0	0	0	0	2		
ミャンマー	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	7		0	0	7	0	0	0	0	0	0	7		
ラオス	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2		0	0	2	0	0	0	0	0	0	2		
受講者総数	7	11	12	16	7	12	12	10	4	6	12	11	9	14	13	15	8	13	10	7	7	6	2	4	34	1	11	9	283		6	0	289	6	19	20	30	75	364		

;) 1 数字は延べ数。

【第4期中期目標・中期計画】グローバル関係抜粋

中期目標	【5】学生の海外派遣の拡大や、優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化、海外の大学と連携したオンラインの活用を含めた国際的な教育プログラムの提供等により、異なる価値観に触れ、地域特性をグローバルな視点で捉える国際感覚を持った人材を養成する。		
	中期計画	【5-1】国際共修教育の基盤となる国際的教育連携の拡充を目指して、必要となる協定、規則、要項、マニュアル等の締結・改定・策定等によって、オンラインの活用を含めた学術交流協定校との学生交流及びダブルディグリー・プログラム等で実現するグローバルな教育制度、海外活動における危機管理教育等の異文化での学習を支援する体制、並びに経済的支援等の制度を整備する。	
		評価指標	①グローバルな教育制度や異文化での学習を支援する体制・制度に必要な協定、規則、要項、マニュアル等の締結・改定・策定によって実施した事業数(第4期中期目標期間中の合計)
		水準	①10 件以上
		設定理由	①「グローバルな教育制度」は、オンラインの活用を含めた学術交流協定校との学生交流やダブルディグリー・プログラム、エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムへの参加、大学の世界展開力強化事業で締結したプログラム協定等の本学独自の海外大学との協定等の締結・改定で実現する制度、並びに、海外大学取得単位をカリキュラムに組み込む学内の制度等を想定している。 また、「異文化での学習を支援する体制」は、オンライン国際協働学習(COIL)強化のための交流活動、課外外国語学習、海外活動における危機管理教育等の体制を、「異文化での学習を支援する制度」は、経済的支援制度等を想定している。 必要に応じてこれらの制度・体制に係る協定、規則、要項、マニュアル等を適切に締結・改定・策定することにより、世界的に拡大する海外教育機関等とのオンラインの活用を含めた国際共修教育の基盤となる国際的教育連携の拡充が実現できるため、それらを適用して実施した事業数を計画達成の評価指標と考える。
		具体的取組	①1)「グローバルな教育制度」は、オンラインの活用を含めた学術交流協定校との学生交流やダブルディグリー・プログラム、エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムへの参加、大学の世界展開力強化事業で締結したプログラム協定等の本学独自の海外大学との協定等の締結・改定で実現する制度、並びに、海外大学取得単位をカリキュラムに組み込む学内の制度等を想定している。 また、2)「異文化での学習を支援する体制」は、オンライン国際協働学習(COIL)強化のための交流活動、課外外国語学習、海外活動における危機管理教育等の体制を想定し、3)「異文化での学習を支援する制度」は、経済的支援制度等を想定している。 必要に応じてこれらの制度・体制に係る協定、規則、要項、マニュアル等の締結・改定・策定を適切に実施することにより、成果として、海外教育機関等とのオンラインの活用を含めた国際共修教育の基盤となる国際的教育連携の拡充を想定している。
	中期計画	【5-2】地域特性をグローバルな視点で捉える国際感覚を持った人材の養成を目指して、地域特性や SDGs の観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、外国語教育、外国人留学生に対する日本語・日本文化教育、異文化環境でのインターンシップ等を推進し、海外派遣・受入にオンラインの活用を含めた新たな双方向学生交流を促進する。	
評価指標		①各事業の成果報告を全学的にまとめる仕組みの構築と自己評価結果に基づく取組改善策の立案状況	
水準		①成果を全学的にまとめた自己評価書を毎年度公表するとともに、評価結果に基づく取組改善策を実施する	

		設定理由	①現在、これらの国際的な教育等について、全学的に情報をまとめる仕組みが存在しないため、この仕組みを構築し、自己評価書を毎年度公表し、評価結果に基づく取組改善策を実施することで、新たな双方向学生交流の促進状況、及び地域特性をグローバルな視点で捉える国際感覚を持った人材養成等についての情報提供・検証等が行えるため、計画達成の評価指標と考える。
		具体的取組	①「1)地域特性やSDGsの観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、異文化環境でのインターンシップ」、「2)外国語教育」、「3)外国人留学生に対する日本語・日本文化教育、異文化環境でのインターンシップ」について成果報告を全学的にまとめる仕組みを構築し、自己評価書を毎年度公表し、評価結果に基づく取組改善策を実施する。成果として、PDCAサイクルで情報提供・検証を行うことで、新たな双方向学生交流を促進し、地域特性をグローバルな視点で捉える国際感覚を持った人材養成に寄与することを想定している。
		評価指標	②海外教育機関等とオンラインや学内外での学修活動を活用して国際的な教育を実施した授業科目数(第4期中期目標期間中毎年度)
		水準	②大学全体で年間20科目以上
		設定理由	②海外教育機関等とオンラインや学内外での学修活動を活用した国際的な教育を実施する授業科目を、大学全体で年間20科目以上開講することで、国際的な教育が推進できるため、計画達成の評価指標と考える。
		具体的取組	②海外教育機関等とオンラインや学内外での学修活動を活用した国際的な教育を実施する授業科目を、大学全体で年間20科目以上開講する。成果として、国際的な教育の推進を想定している。